西多摩医師会報

創刊　昭和47年７月　　第258号　平成６年６月

西多摩散策　－青梅塩船観音寺のツツジ－

目　次

頁

1．平成６年度第一回定時総会開催　広報部 … 2
2．理事会報告　広報部 … 3
3．会員通知・医師会の動き　事務局 … 6
4．各部だより
　医療協開催　地域医療部 … 7
　第１回編集委員会開催　広報部 … 7
　学術インフォメーション　学術部 … 8
　交通安全講習会開催　総務部 … 9
　三公立病院外来担当表　広報部 … 10
5．文芸随筆諸事百般
　『みちのくひとり旅』　近藤　肇 … 13
　『乳幼児健診で』　堤　次雄 … 20
　『私のカメラ遍歴』　安富一夫 … 21
6．同好会短信
　テニス同好会　渡辺良友 … 22
　写真展・絵画展開催　広報部 … 23
7．新人紹介　瀧川牧人会員 … 23
8．お知らせ …… 24
9．表紙のことば　玉木一弘 … 25
10．あとがき　玉木一弘 … 25

平成６年度 第一回定時総会開催

５月28日（土）午後２時より、平成６年度第一回定時総会が西多摩医師会講堂にて、下記次第で開催された。受託事業や、事務員交通費等につき活発な論議があったが、三議案とも原案の通り承認された。

司会　真鍋総務部長

１．開会宣言　総会議事規則第３条により会長が宣告　松原会長

１．議長指名　同３条第２項により会長が山田正哉会員を指名す　松原会長

１．議長登壇

１．資格審査　議長

会員総数368名（過半数は185名以上）出席22名、委任状198で成立す

１．開会挨拶　松原会長

１．議　案

Ⅰ．議事録署名人指名　土田守一、石井好明会員を指名　議長

Ⅱ．報告事項

平成５年度各部事業報告　各部長

Ⅲ．審議事項

第１号議案　平成５年度収支計算につき承認を求める件　高水経理部長

第２号議案　平成５年度預り金につき承認を求める件　高水経理部長

第３号議案　平成５年度西多摩医師会互助会会計収支計算につき承認を求める件　高水経理部長

監事監査報告　監事

―――― 以上　三議案を原案の通り承認す ――――

１．閉会宣言　総会議事規則第３条により会長が宣告　松原会長

１．閉会挨拶　宮川副会長

理事会報告 ★ Information

5月定例理事会　平成6年5月9日　西多摩医師会館

【1】 報告事項

（Ⅰ）各部報告

（広報部）　5月16日に第1回委員会を予定。（玉木理事）

（学術部）　5月18日に第1回委員会、演題についてアンケート調査を行う。（小机理事）

（Ⅱ）各地区会よりの報告（各地区理事）

（青梅）　4月28日に役員会、産廃アンケート結果の検討を行った。

（福生）　5月10日　地区連絡会を予定。

（羽村）　5月17日　〃　〃

（五日市）5月20日　地区会を予定。

【2】 報告承認事項

（Ⅰ）入会会員について ―― 承認 ―― （真鍋理事）

【3】 協議事項

（Ⅰ）平成5年度各部事業報告につき承認を求める件 ―― 承認 ―― （各 部 長）

（Ⅱ）平成5年度収支計算につき承認を求める件 ―― 承認 ―― （高水経理部長）

（Ⅲ）平成5年度預り金につき承認を求める件 ―― 承認 ―― （　〃　）

（Ⅳ）平成5年度互助会会計収支計算につき承認を求める件 ―― 承認 ―― （　〃　）

◎　5月9日　以上Ⅰ～Ⅳにつき監査を行い、適正と認められた。（後藤監事）

（Ⅴ）5月12日　「医療協」議題について（大堀理事）

予防接種の個別化について協議したい。

（Ⅵ）コンピューター購入について ―― 承認 ―― （玉木理事）

ＮＥＣパソコンと周辺機器、財務会計、給与計算、ソフト等を、処理速度、使いやすさ、将来の拡張性を考慮し選定したので導入したい。システム保守、ソフトの運営と学習については、別途計画する。

5月定例理事会　平成6年5月24日　西多摩医師会館

【1】　報告事項

（I）都医地区医師会長協議会及び　（松原会長）
三多摩ブロック医師会長協議会報告（5月20日）

1．都医からの伝達事項

(1)　新たに定期検査の対象となる電気式ハカリの届出について

★　新計量法施行（平 5.11. 1）につき体重測定用、医薬品調剤用、その他電気式ハカリ使用者は、平 6. 6.30迄に東京都計量検定所に届出て下さい。

(2)　平成6年度乳幼健康検査事業に係る検診項目の改定の実施について

★　都民の健康の保持増進の為乳幼児検診につき、平 6.10. 1より健診項目を改定し、6項目から12項目とする。配布予定の「乳児健康診査保健指導の手引」に詳細。講習会は 6. 7.14(木) PM：2～4に予定している。（場所未定）

(3)　病院担当理事連絡会開催について

上記連絡会を新設し、活動を開始する。

(4)　在宅ケア推進のためのシステム作りについて

在宅ケアシステム作り委員会報告が都衛生局で策定済。地区医師会が在宅ケア推進の為委員会等の設置の時、都及び区市町村は地区医師会に財政支援を行う。

(5)　医療機能連携推進のための手引について

浅草、武蔵野、町田医師会で今年度モデル事業を行う。

(6)　高齢者福祉・医療の複合施設基本構想について

東京都養育院に800億以上を投じ、平成12年完成予定。

①　高齢者専門病院　320床　　②　老人保健施設　200床
③　ナーシングホーム 100床　　④　看護婦養成施設 320人　を設置する。

2．地区医師会からの報告

(1)　日大医学部学生を渋谷区医師会に受け入れ学外体験学習を行った。（渋谷区医師会）

新宿区医師会でも、女子医大生を夏休みに受入れている。

3．その他

(1)　都立病産院小児医療検討委員会に対する要望書について

都立八王子小児病院との存続、合併に反対。

（II）「医療協」報告（5月12日）　（大堀理事）

別掲記事参照。

（Ⅲ）学術部委員会報告（５月18日）　　（小机理事）

別掲記事参照。

（Ⅳ）学校医委員会報告（５月18日）　　（樋口理事）

委員長 樋口理事、副委員長 高水理事を選出した。

（Ⅴ）各部報告

（広 報 部）　５月16日に第１回編集委員会開催。別掲記事参照。　（玉木理事）

（地域医療部）６月２日に地域医療委員会を予定している。　（進藤理事）

★（保 険 部）　５月18日平成７年１日より実施予定の新死亡診断書について講習会に出席。実施までにマニュアルが配布される。　（石田理事）

（Ⅲ）各地区会よりの報告　　（各地区理事）

（福生）　５月10日　地区連絡会にて前監事の提言につき話し合いを行った。

（羽村）　５月17日　地区会にて提言について話し合った。

（五日市）５月20日・産廃は各個人で業者に依託している。

・予接は地域事情から当分集団が望ましい。

・五日市・秋川の合併が本決まりの動向あり、今後の対応に検討を要する。

【２】　報告承認事項

（Ⅰ）入会会員について　　── 承認 ──　（真鍋理事）

【３】　協議事項

（Ⅰ）平成６年度第一回定時総会全般について　　（真鍋理事）

（Ⅱ）前監事よりの提言について　　（　〃　）

地区会の意見をさらにとりまとめ継続して検討する。

（Ⅲ）その他

(1)　老齢Ｂ会員の年会費減額について　　（高水理事）

年会費の減額は定款上、Ａ会員のみとする。

会員通知

○６年１期会費納入について
○学術講演会テーマについて（お願い）
○春の交通安全運転者講習会
○甲乙点数表の統一化に伴う障害等医療費請求書の記載方法について
○平成６年度不正大麻・けし撲滅運動の実施について
○産業医研修会のお知らせ（荏原医師会）
○東京都医師会平成６年度前期・後期健康スポーツ医学講習会の開催について
○平成６年度ツツガ虫病対策事業の実施について
○平成６年度西多摩医師会第一回定時総会開催について
　平成５年度事業報告
　　〃　　収支計算書一式
　　〃　　受託事業会計収支計算書
　西多摩医師会創立80周年記念事業収支計算書
　平成５年度西多摩医師会互助会会計収支計算書
　西多摩医師政治連盟事業報告
　　〃　　〃　　会計収支計算書
　東京都医師政治連盟西多摩支部会計収支計算書
○国保診療報酬振込銀行変更について

医師会の動き

医療機関数	１７９	病　院	２８
		診療所	１５１
会　員　数	３６５	Ａ会員	１６５
		Ｂ会員	２００

会議

５月２日　監査会
　９日　理事会・医政連
　12日　医療協
　16日　会報編集委員会
　17日　在宅難病訪問診療
　18日　学校医委員会
　〃　学術部委員会
　24日　理事会
　26日　在宅難病訪問診療
　〃　公衆衛生委員会
　28日　平成６年度定時総会

講演会・その他

５月９日　整備会
　10日　福生地区会
　16日　秋川地区会
　17日　羽村地区会
　18日　法律相談
　19日　春の交通安全運転者講習会

役員出張

５月９日　高木直二郎先生お見舞
　17日　死亡診断書等改訂に係る講習会
　20日　都医会長会
　〃　三多摩ブロック会長会
　21日　三多摩医師会中村努先生日医就任祝賀会
　25日　都医福祉関係担当理事連絡会
　27日　福生保健所、羽村保健相談所開所式

学術部 Infomation

平成６年度新執行部スタートに伴い、学術部委員会も新メンバーとなりました。今年度から広報部の協力を得て、医師会報に情報コーナーを設けて頂き、学術講演会の情報、健康教室・教養講座等の案内等、提供して行く事になりました。何卒宜しくお願い申し上げます。

今期の学術講演会等の基本概念を述べさせていただきます。会員の皆様の御協力なくして成り立つものではありません。御期待にそえるよう最大限努力致します。

学術講演会：会員が参加しやすいテーマを選択、話題のテーマ・トピックスも取り入れ、できるだけ医師会側からアプローチして行きたいと考えております。明日からの診療に直ちに役立つ内容、Co-Medical の人達も聞き易い内容を基本に考えております。

又、１つのテーマに複数のDrを招請し、パネルディスカッションを企画したり、皆様が日常診療で非常に困った症例・苦労した症例・うまく行った症例などを公募し、「この時どうする」というような自由討論会を企画してみたいと思います。

一般健康教室・教養講座は、多くの住民に役立ち、参加してもらえるような内容のテーマを検討し、企画して行く所存です。三公立病院症例検討会は例年通り、10月の予定です。

又、日本医師会生涯教育学習時間記録表の提出率を上げましょう。何かあったときの評価と成り得るものでしょう。

以上、簡単ですが大凡の考えを述べました。

以下が学術委員会のメンバーです。御意見、御要望、御忠告等ありましたら何でも結構です。各メンバーの先生方、もしくは医師会事務局までお寄せ下さい。

委員長　小机敏昭、副委員長　大堀洋一、委員　森本晉、馬詰良比古、小林杏一、奥野仁、樋口昭夫、星野誠、鈴木孝寿（阿伎留病院）、諸角強英（福生病院）、坂本保己（青梅市立総合病院）、足立卓三（担当副会長）、の諸先生方です。

〈学術講演会テーマに関するアンケート調査結果報告〉

（平成６年５月２日発送、５月18日現在）

各先生方から多種多様の御回答をお寄せ頂きました。

以下の如き結果です。今後のテーマを決めるに当り、大変参考になります。御協力ありがとうございました。

今後も何か御意見がございましたら、西多摩医師会学術部までお寄せ下さい。

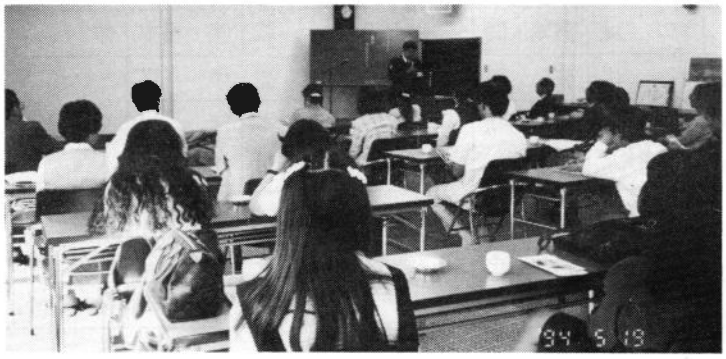
循環器（不整脈・ＥＣＧ・トピックス・薬物・狭心症・高血圧・突然死）　11
老人の脳疾患・精神障害・脳ドック　9
感染症（感染性腸炎・抗生剤・ＡＩＤＳ・中耳炎・ＴＢ・ＭＲＳＡ）　7
悪性腫瘍（癌検診・腫瘍マーカー・治療）　6
眼科・耳鼻科・皮ふ科・泌尿器科・歯科・婦人科から一般医へ　6
画像診断（エコー・ＭＲＩ・ＣＴ等）　5
動脈硬化（ＡＳＯ・高脂血症・食事指導）　5
癌告知・尊厳死・ホスピス　等　5
メンタルヘルス・心身症・うつ病・不定愁訴　4
アレルギー（気管支喘息・花粉症・アトピー　等）　4
ＤＮＡ・遺伝子治療　3
頭痛・めまい・小児の腹痛　3
糖尿病　3
免疫・膠原病　3
疼痛治療（腰痛・膝痛・肩痛等整形外科的のもの）　3
肝炎　2
気功　2
薬物服用時の相互作用　2
外来小外科・救急処置　2
医事紛争・レセプト　2

その他
内視鏡下手術、産業医学上のポイント、フリーラジカル、臨床検査、
胃・十二指腸潰瘍の薬物療法　等

総　務　部

交通安全運転者講習会開催

５月19日（木）２時より西医講堂にて、恒例の交通安全運転者講習会を28名の会員、家族、従業者を集めて開催した。多摩地区事故の特徴（酒酔い、高齢者事故が多い）や新法令施行による注意点として、シートベルトの着用義務、無事故無違反者の５年更新、免許証の変更などについて説明があった。残念ながら、今回の改正で更新時に役立つ特別講習制度が廃止されたとのことで、やや拍子抜けの感はあったが、事故を避けるための様々な話を聞くことができた。



広報部

青梅市立総合病院　外来診察分担表

平成6年5月1日　現在

診療科		月	火	水	木	金	土	専門外来
⑦内科 331		柏木	柏木	柏木	栗山	桜井	交代	リウマチ・膠原病 桜井松岡 心臓 坂本
		原	原	松岡	松岡	原		
		栗山	磯貝	石橋	榎本	新患		消化器 藤木 血液 青木 神経内科 松本
332		松岡	高野	藤木	高野	石橋		
⑦消化器科	〃	新患	細井			細井		甲状腺・糖尿病 原 内分泌 交代
⑦循環器科	〃	坂本	金沢	土信田	坂本・金沢	土信田		
⑧外科 330		正木	山田	宇田	宇田	山田	交代	乳腺 宇田 肛門 藤田
		佐野	比企	藤田	森田	佐野		
⑧胸部外科	330			宇田	宇田・森田			
⑩脳神経外科	329	森	宮崎	埼玉医大脳外医局	鬼頭	宮崎	休診	
○整形外科 328		武井	堀田	武井	堀田	蕨	交代	手・膝 いずれも 形成 交代 股関節
		蕨	詫摩	平澤	平澤	詫摩		
○産婦人科 325 (334) 326	妊婦	高野	内田・池上	南野	富永	林	交代	不妊 林 子宮内膜症 林 更年期障害 林・池上
	婦人科	内田	富永	内田	高野	高野		
		富永	南野	林	林	南野		
		林	高野	高野	池上	池上		
		南野		池上				
○皮膚科	355	竹ノ谷	竹ノ谷	竹ノ谷	竹ノ谷	田嶋	休診	
○泌尿器科	351	友石	奥井	立川	友石	高島・佐藤	休診	保坂 交代
○小児科 327		林	崔	林	崔	林	休診	神経 未熟児 心臓 交代 心理カウンセラー 山本 喘息 崔 内分泌 勝又 腎臓 林
		崔	北浦	繁友	北浦	繁友		
		繁友	村田	村田	村田	北浦		
○眼科	353	瀬口・秋山	瀬口・秋山	招へい医	瀬口・秋山	秋山	休診	未熟児網膜症 斜視弱視 交代
○耳鼻咽喉科	352	宮城	宮城・関	石田・関	宮城	関・橋本	休診	
○神経科 354	新患	石黒	荻田	山本	三浦	中野	交代	
	再来	中野 (予約制)	山本・中野 (予約制)	石黒 (予約制)	山本 (予約制)	河村 石黒(予約制)		
○放射線科	333	招へい医(治療)		招へい医(CT)			招へい医(RI)	
○理学診療科	219		藤本	藤本	藤本		休診	義肢装具
○口腔外科	350	吉田	交代		高久	交代	休診	

国保連合会福生病院　外来診療担当医表

平成6年5月1日　現在

科別＼曜日		月	火	水	木	金
内科	午前	高橋 皆川 井沢	吉田 島井 櫛方	森 島井 高橋	笠井 笹川 櫛方	笠井 大須賀 井沢
	午後	神経内科　森 心エコー　島井 膠原病　大迫	肝臓　奥村	甲状腺　木下 心エコー　笹川	糖尿病　笠井 循環器 呼吸器　哲翁	神経科　原 (交互)　辰沼 神経内科　瀬川
外科		豊泉	諸角	藤田	諸角	池田
	内視鏡	藤田 豊泉	藤田 豊泉	笠井	諸角	藤田 豊泉
整形外科		柴崎 若松	若松 山田	柴崎 山田	小野 山田	山田 小野
皮膚科	午前	上條	上條	長島	上條	上條
	午後	子供外来 凍結外来	手術日			
眼科		大久保	休診 (手術日)	大久保	大久保	大久保
			午後　(コンタクト)			
耳鼻咽喉科		吉田 補聴器　大和田 (第1・3週)	吉田	吉田	田中	吉田
小児科	午前	笠井	曽我	斉藤	(第1週と第3週) 山登 (第2週と第4週) 長	松山
	午後	予防注射　松山 (第3週休み)	腎外来　(第4週) 本田 喘息　(第1週と3週) 曽我		乳児検診	
婦人科		鈴木	鈴木	小島	東	牧田
産科		小島	小島	東	牧田	小島
泌尿器科		石黒	石黒	石黒	休診	石黒
脳外科		中川	休診	中川	休診	中川

公立阿伎留病院　外来診療担当医表

平成6年4月1日　現在

		月	火	水	木	金	土
内科	1	馬場	若山	西成田	馬場	瀬戸	別表のとおり
	2	佐藤	江本	瀬戸	櫻井	佐藤	
	3	横小路	高村	高村	渡辺	小野	
	4	平沼	東	佐野	平沼	佐野	
血液透析	午前	瀬戸	櫻井	横小路	瀬戸	若山	
	午後	瀬戸		瀬戸		瀬戸	
	夜間	横小路		櫻井		若山	
専門外来			呼吸器（平沼）	血液・膠原病（西成田）	喘息・在宅酸素療法（佐野）	糖尿病（高村）	
			糖尿病（高村）	消化器（渡辺）		神経内科（小野）	
			循環器（江本）		血液（馬場）		
人間ドック			馬場		馬場	馬場	
小児科		政 岩本	政 岩本	政 岩本	政 藤井	藤井 岩本	
			乳児検診	予防注射			
外科		鈴木	藤田 堀江	藤田 櫻井	鈴木 （萩原）	鈴木 （藤田）	
整形外科		伊藤 星	町田 星	町田 伊藤	本田 伊藤	本田 星	
（特別診）							
脳神経外科		前村	時津	伊東	伊藤	伊東	
皮膚科		甲原	甲原	甲原	甲原	狩野	
（午後診）		予約検査	アレルギー外来（早川）	凍結療法			
泌尿器科		朝岡	蜂矢	朝岡	朝岡	朝岡	
産婦人科		森田 斉藤	斉藤 吉村	森田 斉藤	森田	森田 葉梨	
眼科		秋山	藤原・秋山 森村（手術）	徳永	秋山 森村（手術）	秋山 森村	
		予約検査	コンタクト定検	予約検査	予約検査	蛍光眼底検査予約	
耳鼻咽喉科		大塚 長野	大塚 一川	大塚 長野	山口 長野	大塚 長野	
		アレルギー外来	聴検	手術	聴検	手術	
歯科		山下	山下	山下・柳井	山下	山下	

午後診療は予約を要します。

外科の（　　）は、検査終了後、外来勤務とする。

文芸随筆諸事百般

みちのくひとり旅

── 芭蕉とともに ──（Ⅰ）

さすらいの旅

近藤　肇

芭蕉と『おくのほそ道』

私は芭蕉の『おくのほそ道』のみちのくの旅の足跡を辿りながら、カメラ片手に、300年前の芭蕉を偲ぶみちのくひとり旅に出た。

芭蕉は旅立つに際し、重大な決意をもって、自分の住み家を売り払って旅費を作り、おくのほそ道の旅に出た。そのことは、「おいしい肴など食べられもせず、乞食行脚を心に期し、昔の僧のように名利を捨てた姿になろうと、やつしやつして（見すぼらしい格好して）、世間的には狂気の沙汰と思えるような旅に出るのだ」と、郷里の友人に手紙を出した文面に表われている。これは、脱俗的と同時に時流に反発する自分の生き方を示そうとしたのでもあった。

芭蕉の生まれたのは、多くの年譜では、寛永21年（1644）伊賀の国（三重県）の上野（上野市）となっている。しかし、隣村の柘植だったかも知れない。柘植に「芭蕉誕生宅跡」の碑がある。育ったのは上野でも、生まれたのは柘植のようでもある。それはともかく、芭蕉の故郷はといえば伊賀の上野であり、伊賀の上野といえば芭蕉である。

姓は松尾、幼名は金作通称甚七郎。当初、俳諧好きの藤堂藩の武家に仕えていたが、29才の寛文12年（1672）、幕府のある中央で俳諧の道を歩もうと、江戸へ上った。

当時、俳諧の傾向は、機知・滑稽・軽い弾みのある「談林俳諧」という形式の時代になっていた。芭蕉は、「談林俳諧」から、さらに新たな作風を考えていた。世俗を嫌い、隠者の身として生活をしつつ、禅の修行をし、中国の古典の杜甫、蘇東波などの詩を好み、それを随所におり込んだ句を作っていたのであるが、機知・滑稽・軽い弾みに加えて、「さび」、「閑寂」、「世の無常」と、表現の「意外性」とを巧みに表現した軽妙な独特の『蕉風』の俳諧を打ち立てようとしていた。

（注：句の会は、主たる人が最初の5・7・5の句の詠み、それをうけて、7・7とつづけ、連句するのであるが、そうして作る句が俳諧である。その第一句を「発句」という。これに次の人が連ねる句を「ワキ句」という。発句としてでない単独の句は「地発句」と呼ぶ。俳句という語は明治の正岡子規以来のものである。）

元禄2年（1689）、陰暦3月27日（陽暦5月16日）、芭蕉46才の春、弟子の曽良を伴って江戸の深川を発った。

旅の準備として、住み家となした芭蕉庵を引きはらい、弟子であり後援者でもある杉風宅に移った。

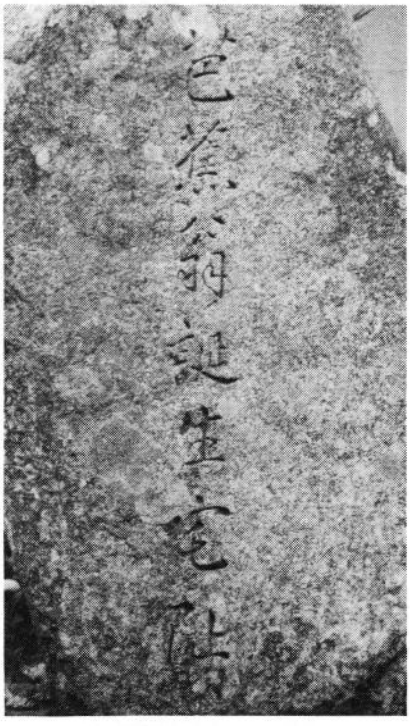
おくのほそ道の旅は、150日、600里（2,400キロ）。江戸の深川の芭蕉庵を出発して日光、白河の関などを経由して、白石・仙台、多賀城、塩釜から松島、石巻へ寄り、平泉において、藤原三代の栄華と滅亡に思いを込め、そして、陸奥の山岳の道を横断して、山形の尾花沢、立石寺、最上川、出羽三山、日本海の酒田、そして、山形県を越えて、当時松島とともに天下の二大景観とされた秋田県の象潟へ。そして、酒田へ引き返して、越後から北陸道を回って美濃の大垣に辿りついたところで「おくのほそ道」は終わっている。

この間の、みちのくの芭蕉の旅は、芭蕉が最も気分が高揚し、楽しく日々を過ごしたと思われ、『おくのほそ道』のハイライト部分

上野城：
藤堂高虎の築城。天守閣は昭和になってから造営。現在上野公園となっている。
上野市への交通：京都より草津へ、草津線で柘植へ、柘植より関西線で伊賀上野、近鉄線で上野市へ。柘植より車で上野市に行くのが便利、20分余り。

上野公園内にある。

句碑がある。
“古里や　臍のをに泣
としの暮”



柘植の芭蕉翁誕生宅址の石碑：
芭蕉が実際に生まれたのは上野より東10数キロ伊賀町柘植が事実のようである。付近に松尾姓は多い。父の代に上野へ引っ越した。

ではないのだろうかと私は思う。そこで、私は、芭蕉の松島から平泉を経て陸奥から出羽の国へ出た道のハイライト部分の足跡を追い、芭蕉を偲んでみたのである。

芭蕉は出発前の感慨を『おくのほそ道』冒頭の記述「発端」で述べている。

芭蕉本文：発端

月日は永遠にとどまることのない、旅を続ける旅客であり、この人生を刻む、来ては去り、去っては来る。年も同じ旅人である。船頭となって船の上に一生を浮かべ、馬子として、馬のくつわを取りながら年老いて行く者は、毎日の生活がいわば旅であって、無所住の旅をば自分の常住の生活としている。

李白・杜甫・西行・宗祇などの先人たちも、多く旅の途上に死んでいる。自分も、いつのころからか、あのちぎれ雲が風に吹きよわされるかのごとく、雲や風などの自然の動きに誘われて、あてどない旅にさすらい出たい気持ちがしきりに動いてやまず、遠い陸奥の果ての海のほとりをさまよい歩きたく、去年の秋に旅から隅田川のほとりのもとのあばらやに帰って来てから、蜘蛛の巣を払い、久方ぶりにひとまず、腰を落ち着けはしたものの、やがて年も暮れ、春も立ち返ると、次の旅を思う。

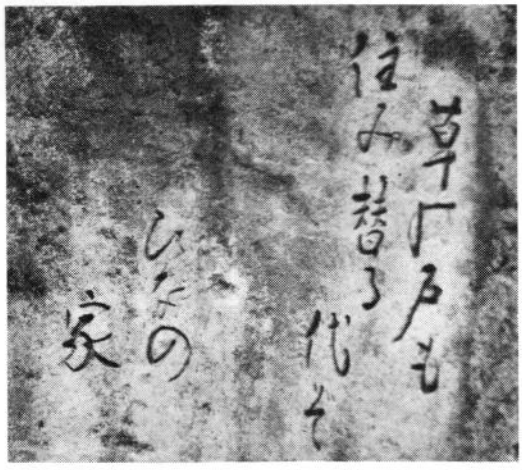
初春の霞の空に向かうと、今度は、白河の関を越えて、はるかな陸奥の旅に出ようと、そわそわと、何も手につかず、ももひきの破れを繕い、道中傘の緒を新しくすげかえ、三里の灸をするなど、旅の支度にかかるうちに、早くも、もう松島の月が気にかかって、今まで住んでいた芭蕉庵は人に譲り、杉風の下屋敷に移った。

“草の戸も　住み替る代ぞ
ひなの家”

これを発句として連ねたおもて８句を、別れの記念として旧庵の柱に掛けておく。

芭蕉が留別の句として残した　“草の戸も……”の句には、次のような思いがあったのであろう。

――世捨て人の栖として、自分の住み慣れてきたこの草庵にも、免れることのできない、流転の理法のもとに、あるじの住み替わる時節がやって来た。折からの、弥生の節句に、自分の出た後の草庵は、娘・孫を持つ世俗の人である新しいあるじにより、はなやかに、雛を飾る家と変わるが、それに対して、今や、自分は、栖を出離して、無所住の旅に出ようとしている。自分はこの旅を転機として何を得てどういう自分になるであろうか。――



深川芭蕉記念館前庭の石碑
“草の戸も　住み替る代ぞ
ひなの家”

江東区深川に、芭蕉記念館がある。都営地下鉄森下で下車10分余り、裏手から隅田川の新大橋が見える。少し南に歩いて行くと、万年橋があり、すぐ手前に芭蕉庵跡がある。

大正６年に大津波があった時、芭蕉の愛した「石の蛙」がそこから出てきたということから、芭蕉庵があった地だろうとされている。その石は現在、芭蕉記念館に展示されている。

芭蕉は、前に書いたとおり、29才で江戸へ来たが、最初、杉風の家の近く日本橋小田原町（注：現在の三越の前の方）に住み、後に、

この深川の地に転じた。そして、深川の草庵に移った2年後、天和2年（1682）12月28日の江戸の大火で芭蕉庵は丸焼けになり、甲斐の国谷村（現山梨県都留市）の門人宅に身を寄せ、翌年5月頃江戸に戻り、門人たちの寄付で新しい芭蕉庵をつくってもらった。

ところで、芭蕉の船出はこの芭蕉庵ではない。この南東、清澄公園の先、仙台堀川にかかる海辺橋の南詰めの川岸にあった杉風の別荘が船出の地であった。

『深川の芭蕉』

ここから船出　海辺橋の川岸

石の蛙が出てきた芭蕉庵跡

仙台から

曽良の随行日記によると、5月8日朝のうち、小雨。仙台を立ち、塩釜に着くとある。

私は、青梅を早朝発って東北新幹線で仙台駅に立ち、仙台から、心の中に芭蕉を抱いての旅を始めた。NHKの大河ドラマ『炎立つ』の舞台ともなった多賀城市、今はすっかり工業都市化され、昔の農村地帯の面影のなくなった道を走り、塩釜に出た。

芭蕉本文：末の松山・塩釜

その夜、盲目法師が琵琶をかき鳴らし、奥浄瑠璃を語るのを聞く。平家琵琶でなし、幸若とも違う。いかにも田舎びた調子を張り上げて語る。考えてみれば、片田舎なのだ。昔ながらの風儀を忘れずに伝えているもの故、奇特なことよと感ぜずにはおられなかった。

塩竈の明神に参詣し、荘厳きわまりなく、みちのくの奥、このような国土のさいはて地にまで、かく神霊があらたかに鎮座ましますこそ、わが神国の美風なのだと貴く拝礼した。

芭蕉の気持ちには、文化の遅れた、貧しい、片田舎にきたのだ、江戸・京都から離れた「えぞ」の地という先入観があった。ここは田舎の陸奥の地だが、感心じゃというわけである。

芭蕉は、9日、快晴の中、塩釜明神を拝したあと、午後になって船で、塩釜から海上2里（8キロ）余、雄島の磯に着いた。

松島について感嘆しきりである。

芭蕉本文：松島

そもそも、多くの先人たちの文藻に言い古されていることではあるが、松島は日本第一の絶景であって、まずは中国の洞庭、西湖に比べても遜色がない。松の緑も色濃く、枝葉は潮風に吹き曲げられ、その曲がりくねった枝ぶりは、自然のうちに、まるで人工をもって曲げ整えたか

のように思われる。

景色の美しさは、見る人をして恍惚とさせ、かの東坡の詩にいう、美女がいやがうえにも美しく顔を化粧したかの趣がある。

これは、遠い神代の昔、大山祇の神のなした仕業であろうか。かかる造物主の霊妙な仕事をば、いったい何人が彩管をふるい、詩文をおどらせて表し尽くすことができるであろう。

曽良はこんな句を作った。

“松島や　鶴に身を借れ
　　ほととぎす”　　曽良

自分は、待望していた絶景に接して、もはや、句をよむどころではない。句作を断念して、さて眠ろうとしても、感激のあまり眠ることができない。

旅立ちで、芭蕉庵を跡にするとき、旧友の素堂が松島の詩を作ってくれ、また、原安適は松が浦島の和歌を贈って下された。眠られぬままに、頭陀袋をひもとき、それらの詩歌を取り出して、こよいの心を慰める友とする。袋の中には、杉風や濁子が贈ってくれた発句もあった。

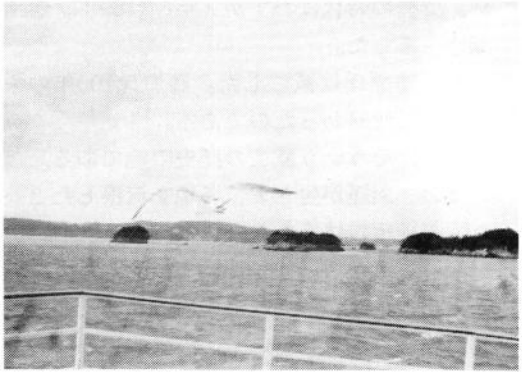
『おくのほそ道』には、芭蕉が松島を詠んだ句はひとつも出てない。

感嘆のあまり、句が出なかったといっている。その代わりに随行の弟子曽良の句を上記のようにひとつ載せている。（曽良の句：すばらしい松島の眺め。折から、ほととぎすが一声鳴きすぎた。ほととぎすよ、この松島の絶景に対しては、お前の姿のままではふさわしくない。声はそのままに、望むらくは、鶴の毛衣に身を借りて、鳴き過ぎよ。）

松島から平泉へ

芭蕉は、松島から石巻へ出て、昔から歌に詠まれた有名な金華山を眺めたり、石巻が意外に、漁港として繁盛しているのを見て感心したりして、一関に出て宿した。芭蕉は、一関を足場に平泉へ出かけた。

私は、その跡を追った。松島海岸駅から、



松島湾：
“ああ　松島や　松島や”
芭蕉と同じく塩釜から海上を松島へ渡った。
遊覧船の上を飛び交うカモメ。

仙石線の快速「うみかぜ」で30分石巻へ。石巻から石巻線で約一時間、小牛田へ。乗り換えて、東北本線で一関へ出た。一関のビジネスホテルを宿とし、平泉へ。平泉は東北本線で一関から二つ目。

平泉で、私はまず芭蕉も上った高館の丘現在「義経堂」となっている高台を訪ね、北上川を眺望す。

次いで、中尊寺の堂、寺塔をまわる。ああ、これが芭蕉が感嘆措くあたわざりし光堂かと石段を上り、樹木に囲まれた堂を見る。

平泉は、奥州藤原氏の栄枯盛衰の歴史の地である。藤原三代の絢爛たる、奥州文化の歴史、藤原氏の経済力・軍事力・奥州文化は平泉を中心にして支えられ発展していた。

藤原時代は、初代清衡、第二代基衡、第三代秀衡の藤原三代の歴史である。

第三代秀衡は、頼朝に追われてきた義経を保護していた。

この時代、全国を武力支配していた源頼朝にとって、奥州藤原氏のみが服従せず、義経をかくまってもいるから、まことに、憎らしき限りであった。

頼朝は、義経を返せと秀衡に迫るが言うことを聞かない。秀衡死去の後、第四代の泰衡は、とうとう、頼朝に屈し、義経を高館の丘で殺した。だが、泰衡自身ものちに、頼朝の攻撃を受けて逃亡、家臣に暗殺されてしまっ

た。泰衡の時代はわずか2年、1189年、泰衡35才であった。

奥州藤原氏は滅亡した。藤原氏100年の栄華、これで終わったのである。

平泉はそういう滅亡の歴史の地である。

なお、義経が生きて、各地を流浪したという、義経伝説はあちこちにある。

余談だか、私が所有している北海道の洞爺湖畔の土地に巨大な岩があるが、そこの洞窟に義経が祀られていて、義経岩という。毎年7月20日に、村は、義経祭りを開催し、酒を飲んでいる。

芭蕉本文：平泉

藤原三代の夢もわずか一睡の間の夢と過ぎ、今は廃墟と化した平泉の館の大門の跡は一里も手前にあって、往時の巨構を偲ばせている。秀衡の居館の跡は、田野となっており、かれの築かせたという金鶏山のみが昔の姿をとどめている。

何よりもまず、義経の遺跡高館に上ると、突如として北上川が眼下の視野に飛び込んでくるが、これは遠く南部領より流れてくる大河である。衣川は、かの義勇の士、忠衡の居館、和泉が城をめぐって、この高館の下で、大河に合流している。

泰衡らの旧跡は、ここからは、衣が関を隔てたかなたにあって、北の関門南部口を固く守り、蝦夷の侵入を防ぐ形に見える。

さても、義経が、義勇の臣をえりすぐって、この高館の城に立てこもり、数々の功名もただ一時の夢と消えて、跡は、ただ茫々たる草原となってしまっている。私は、「国破れて山河在り、城春にして、草青みたり」と杜甫の詩を口ずさみつつ、笠敷いて、腰を下ろし、時刻の移るまで懐旧の涙にくれたのであった。

芭蕉が、一関を足場に、平泉を訪れたのは、5月13日（陽暦6月29日）のことで、感慨深かった一日を集約して、自然と人生の流転、悲哀、宇宙・天下の永劫性という、人生の哲学、旅の哲学を謳った。それが、次の句である。

高館の丘にて：

“夏草や　兵どもが
　　夢の跡”

――往年義経以下の勇士たちが、功名の夢を抱いて奮戦し、はかなくも、一場の夢と消えた廃墟。その廃墟の上に、生えては枯れ、枯れては生えて、今、眼前に茫々と生い茂る夏草は、人生の刹那の興亡と悠久の夢とを象徴しているかのようだ。芭蕉は、兵どもの夢の跡に立って、感慨新たなものがあったのだが、昔を偲んだ心、それは単なる古戦場や、哀れみの感傷でない。――

ここで、芭蕉は曽良の句をつけ加えている。

“卯の花　兼房見ゆる
　　白毛かな”　　曽良

（折から、真っ白に咲き乱れている卯の花を眺めていると、その白く咲き乱れた花の中から、義経悲劇の最期を飾った兼房の姿が彷彿として浮かんでくる。あの、真っ白に振り乱したかれの白髪が……という思いだ。）

芭蕉本文：中尊寺

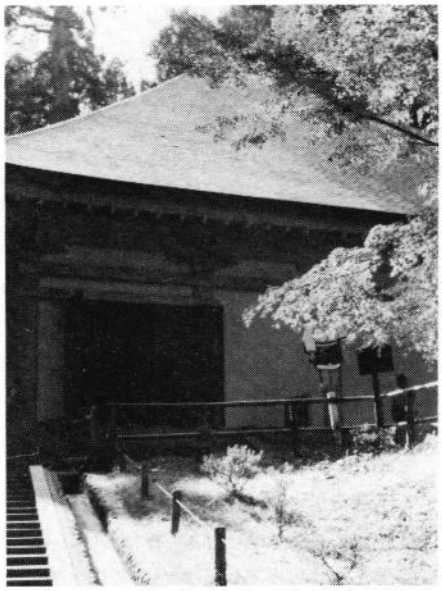
かねがねその壮麗さを話に聞いて驚嘆していた中尊寺の二堂を開帳する。経堂は、清衡、基衡、秀衡の三将の像をとどめ、光堂は右三代の人々の棺を納め、弥陀三尊の仏像を安置してある。かつて内陣を絢爛と荘厳した七宝も散り失せて、珠玉をちりばめた扉は多年の風にさらされて損壊し、金色の巻き柱は、積年の霜雪のために腐朽して、もう少しのところで崩れすたれ、むなしい廃墟の草原となるところを、堂の四面を新たに囲み、上から屋根を覆って、風雨を防いである。こうして、はかない現世におけるかりそめの間ながら、なお、千古の記念とはなっている次第だ。

“五月雨の　降り残してや
　　光堂”

―― “五月雨の……”の句意：この寺の建てられて以後、五百年にわたって年々降りつづけてきた五月雨もここだけは降り残したのであろうか、今、五月雨煙る空の下で、光堂は燦然と輝き、かつての栄光を偲ばせている。――

義経最期の地：
泰衡が家臣を使って義経一族を襲って、義経を自殺せしめたとされる高館の丘には、義経堂があり、真下には北上川が流れている。

高館の丘から見下ろす北上川：
“夏草や　兵どもが　夢の跡”はここでの芭蕉の情感である。



中尊寺金色堂（光堂）：
中尊寺は、初代清衡が、前九年の役（1056）・後三年の役（1083）の戦乱による死者を弔って建立したものである。最盛時には、寺塔40余、僧坊300余、戦乱や火災で消滅し、残っているのは金色堂と経堂である。

私は、中尊寺の後、毛越寺（もうつうじ）の庭園を見て、タクシーで厳美渓の川岸の岩に腰を下ろして渓谷の美を満喫して一関のビジネスホテルに帰り、私の中尊寺・平泉は終わった。

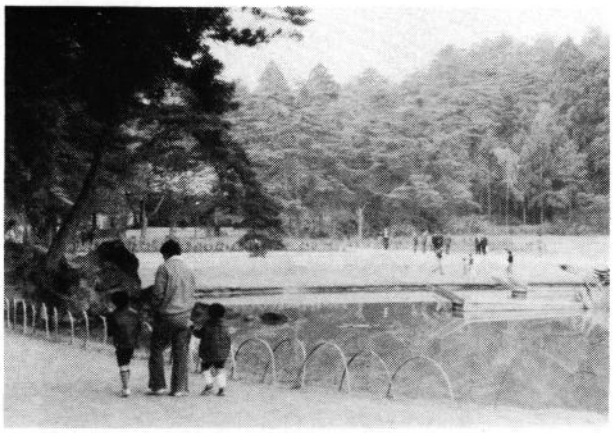
私の中尊寺・平泉は今度が二度目であるが、この前もそうだったと思うが、どうやら、わんこそばを36杯たいらげたことが私の中尊寺・平泉のようである。

そこで、駄句ひとつ。

“みちのくに　春めぐりきぬ
　　わんこそば”
――夢児――

芭蕉はわんこそばを食べたであろうか。私は無類のそば好き、わんこそばの看板見て足どりが早くなった。

私の中尊寺・平泉は花より団子。芭蕉翁よ、許し給え。



毛越寺の庭園：
　毛越寺は、第２代基衡の建立である。平安貴族が心に描く浄土にふさわしい、寺院や大庭園をしつらっている。かつては、堂塔40余、僧坊500余の壮大さを誇っていた。

わんこそば：
　わんこそば36杯食べたが、普通の４、５人前くらいか？私はこの35年間、１年間に400回はそばを食べている。

乳幼児健診で

堤　　次雄

乳幼児健診時の保健センターホールは、生気に満ち溢れています。そこは、「これから何十年も生きていくんだ」という幼子達の集合ですから元気と瑞々しさを感じるのです。

幼子のあどけない顔や仕草を見ると、如何なつむじ曲りの爺さまでも心が開き頬の筋肉をゆるませると思います。

実際、私が生物学的にほぼご用済みとなった今、幼子が余計に可愛いと思うのです。

センターホールでの乳幼児の泣き声や、はしゃぐ声、どたばたと走り廻る足音、若い母親達のお喋り。笑い声などの混合性騒音は少しも気になりません。（耳が遠くなったからではない）

開業した30年ほど前の健診会場は町の古びた小劇場でした。畳敷きの埃り舞うホールで健診や予防注射をやっていた記憶があります。その頃の若い母親の服装は今の人達よりも地味な感じでした。現在は明るく清潔な保健センターがあり、そこに集まる母子は共に発育は良好です。特に母親の服装は色彩ゆたかで個性的になりました。時たま、ファッション雑誌から抜け出てきたような、ミニスカートやショートパンツがよく似合う母親を見かけることがあります。こんな話をすると私よりずうっと年長の口うるさいM先生に「あのなぁ、あんたは一体どこに重点おいて見とるんだよ。あん」と言われそうですが、私はミニをほんの、チラッ、と見ただけです。あとは与えられた仕事を額に汗してやっているのであります。

特製の笑顔で「お願いします」という母親に出合うことがあります。どこかで見た顔だな、と思いながら微笑を返すや、私は急ぎ旧式の脳コンピュータを作動させて、過去の情報を求めますが間にあいません。

彼女は「わかっていないな」と思うらしく

「ほら、小さい頃にお世話になった松多セイコです」とか、「宮の沢リエでーす」とか言って大ヒントを与えてくれるのですが、仲々思い出せません。にっこり頷き、「わかってるんだよ」との演技でここは凌ぎます。その子から3番目の子の診察が終わったころ、「あぁ、彼女は泣き虫のセイコちゃんか」とか、「おぉ、愛想よしのリエちゃんだったのか」と思い出すのです。情けないです。想起力の悪さにがっくり肩を落とし、我が脳の衰退ぶりにこの先を思えば恐ろしくなるのです。

その子は部屋に入ってからずっと泣きっぱなしでした。わたしの傍にくると更にトーンを上げ手足をばたつかせました。

「よぅく泣く子ですね」と笑顔でわたし。

「この子はお爺ちゃんが嫌いらしいの。あらっ、悪かったかしら」若い母親は『ちょっと言い過ぎたな』と思ったのか手を口に当てて少し赤い顔をしました。

「別に悪いこたぁないですよ。わたしぁ、ほんもののヂヂイなんだから」今のわたしは、誰に何と言われようと、淡々として心は平であります。隣を見ました。わたしより先輩の白髪、温顔のT先生が診察を終えて、母親に優しい声で説明しておられました。

あれ、先生がみていた子は全然、平気な顔してんじゃないですか。

世の中には、お爺ちゃんが、大好きって子も一杯いると、わたしは思うんだよな。

私のカメラ遍歴

熊川病院　安富一夫

私のカメラ歴は随分長い。ライカ対コンタックス論争の華やかな頃からである。初めて使ったカメラはヴェストコダック。これは友人から借りた物であった。最初に撮ったのが母親のスナップ。フィルム代を出してくれたことに敬意を表したわけであるが、これが良く撮れた。以来、オリンピック、ベビーパール、セミ・パールと遍歴。戦争のために、一般のフィルムが店頭から消えた頃、当時結核予防の為に盛んにおこなわれた胸部間接撮影用の35㎜のフィルムを流用し、ベビーパールに工作をして撮影を続けたが、遂にこれも駄目。カメラは只の箱になった。

戦争に敗れて、東京は焼け野原。それも落ち着いた頃、解剖学教室の友人を通じて、憧れも久しいライカⅢaを手に入れた。内科学教室在席の文部教官助手であった私には一考を要する金額であったが、手に取った時のライカⅢaの質量感には感激した。

金属部のスリ傷も、良く撮れるからこんなに使ったと、善意に解釈した。この解釈に誤りはなく、カメラは故障なく働いた。ズマールレンズの描写は本で読んだ程ではなかったので、ニッコール、トプコール、キャノン等、鋭いピントのレンズを使うようになった。

その後、木村伊兵衛氏の記事を読んでから、解像力だけでレンズの良否を診断することの誤りを知り、味のよいというズミタール、ズマロン、ズミクロン等ライツ社のレンズを使うようになり、カメラもⅢf、CL、M4を購入し、ライカ党になった。

医師会の写真展やクラシックカメラの会に作品を展示するが、私のはカラーが少なく、モノクロの作品が多い。ライカにはモノクロが似合っていると思うからである。

カラー写真全盛の時、昔ながらのモノクロ写真には悩みがある。展示用の作品にする為には「引き伸し」と言う操作が入る。若い頃は最後まで自分でやってたが、今はもうやる気はない。カメラやレンズ、フィルムの性能を損なわず、素直にスーと引き伸して写真にしてくれる店をみつけなければならない。以

前、私の利用していた「貸し暗室」の店に細かいことに拘る店主が居た。原板とイーゼルの平行度検査をやり、レンズはニッコール級のでなくては駄目等と言う。水洗い後のハイポの残留は、カメレオン液でチェックしてくれるというような人だが、多少の能書きを我慢して聞けば、あとは安心出来たのである。

自分で暗室作業をやらないとなると、気に入るように写真を仕上げてくれる店。これを見付けるのが大変で、昨今は、やはりカラー写真かなと考えてしまうのである。

近頃、カメラはM−4、レンズはズミクロン40mmかキャノン85mmかの組み合わせが、一番相性が良いことに気が付いた。風景、人物（特に女性）が良く撮れるので、撮影会や結婚式などには、この組み合わせを持って行くことが多くなった。

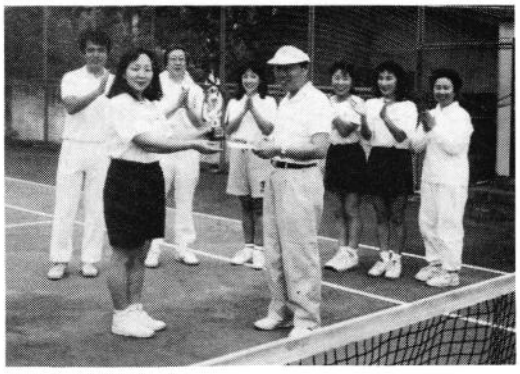
そのようなわけで、出番の少なくなったⅢaやⅢfを気の毒に思う時、私はこれらのカメラにズマロン35mmを装着し、肩に掛けて外出する。風に当てるためである。

駅のホームで立ち止まっていると、背後からこのカメラを見ながら、右に左に歩く人がいるのに気が付く。若い人、年配の人と様々であるが、この古いカメラに好意を持って眺めてくださっていることは、振り返って確かめるまでもなく、私にはよく分かるのである。そんな時、カメラと共に私もいささかの幸福を味わっているのである。

同好会短信

テニス同好会

春期テニス同好会
ミックスダブルス開催



平成６年５月14日(土)、ＰＭ１：00より春期テニス同好会ミックスダブルス試合が、羽村市大聖病院テニスコートにて開かれた。

晴から曇り３〜４ｍの風があったが、まづまづのテニス日和であった。試合は横田会員ペアが、他チームを圧倒、全チームに対して勝点を上げ、完全優勝であった。試合後、羽村市「鳥康」にて懇親会を開き、初夏の生ビールを堪能、鳥料理を酒菜に大いにテニス談義に花が咲き、盛上がった。

結果は下記の通りである。

順位	氏　名	H.C	総合ポイント
優　勝	横田・印東組	3	27
準優勝	松原・明石組	12	22
3　位	真鍋・林 組	3	21
4　位	渡辺・俵川組	6	20
5　位	玉木・渡辺夫人組	13	14

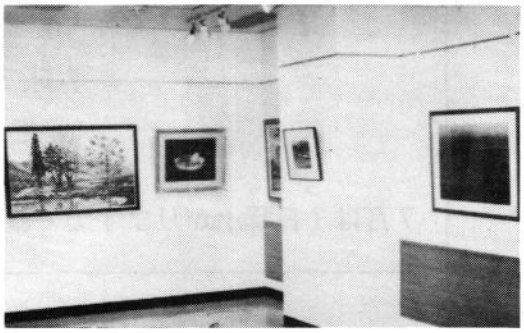
（渡辺良友記）

〔写真展開催〕

西医写真部写真展が5月17日～5月22日まで、福生駅プチギャラリーで開催された。40余点の力作が展示された。

〔絵画展開催〕

絵画部展覧会が、写真展後の5月24日(火)～5月29日(日)、同じく福生駅プチギャラリーにて開催された。



両展とも、場所がら一般来訪者も多く好評を得た。 (広報部)

新人紹介

青梅市　瀧川メンタルクリニック
瀧川牧人会員

この4月より、河辺駅北口に神経科・精神科のクリニックを開業させていただきました。これまで4年間総合病院の神経科に勤務してまいりましたが、どうしても神経科受診といいますと、敷居が高く、受診の時期をのがしてしまいがちであること、又、入院治療を行った後の方々の精神的リハビリの場が少ないことを考え合わせ、精神科デイ・ケア併設の診療所としてスタートすることといたしました。若輩ではありますが、総合病院でのリエゾン領域の問題への経験も生かして、心療内科的ジャンルにも、取り組んでいくつもりでおりますので、宜しく御鞭撻、御指導をお願いいたします。

趣味はモータースポーツで、モトクロスをやっておりましたが、開業を機に危険度を考え自粛しております。現在は、3年やっていても一向に上達しないゴルフを細々と続けております。こちらの方も機会がありましたら、御指導いただければ幸いです。

お知らせ

お　知　ら　せ

7月（6月診療分）の
保険請求書類提出日
7月7日（木）
―― 正午迄です。 ――

7月は1日繰上がりますのでお間違いのないようご留意願います。

法　律　相　談

西多摩医師会顧問弁護士　鈴木禧八先生による法律相談を毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽にご相談下さい。

◎ **相談日**　**6月は8日（水）**
7月は13日（水）の予定です。
◎ 場　所　西多摩医師会館和室
◎ 内　容　医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎ 相談料　無　料（但し相談を超える場合は別途）
◎ 申込方法　事前に医師会事務局迄お申込み願います。
（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

原稿募集

表紙の絵画・写真、御意見、文芸、随筆、諸事百般……**投稿自由**

毎月15日　〆切
事務局又は広報委員まで

表紙のことば

西多摩散策——塩船観音寺のツツジ——

5月の連休明けに、ツツジが美しいと聞きつけ、絵地図片手に青梅市の塩船観音に行った。都区部からもバスツアーが立ち寄るとのこと。大門診療所と慶友病院の前を通り過ぎると、あっという間に到着してしまい、こんな近くにあったのかと、地元民としてあいかわらずの不勉強をはじる結果となった。西暦645年頃建立の不老長寿の観音様とのこと、1万5千本のツツジがみごとだった。

玉木一弘

あとがき

新編集委が本号よりスタートしました。各部だよりでも報告致しました通り、情報伝達、相互理解、読みやすい紙面、特集や企画記事へのチャレンジを念頭に、医師会に集う意義を少しでも感じていただけるような会報作りをしたいと思います。

御意見、御指導をよろしくお願い致します。

玉木一弘

社団法人 西多摩医師会 平成6年6月1日発行

会長 松原貞一 〒198 東京都青梅市西分3－103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 玉木一弘
石井好明 奥野 仁 片平潤一 小机敏昭
高水松夫 樋口昭夫 道又正達 山川淳二

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

健康の輝きをひろげる。

株式会社ビー・エム・エル
BML
本社・〒166 東京都杉並区高円寺南1-34-5 TEL.03-3316-0111(大代表)
総合研究所・〒350 埼玉県川越市的場1361-1 TEL.0492-32-0111(代)

優れたノウハウで西多摩医師会会員のニーズにお応えいたします。

経理事務に関することなら何でもお気軽にご相談下さい。

- 一人医師医療法人の設立・先生方の関連事業の会社設立
- 新規開業時の銀行提出資料の作成
- 毎月の記帳・給与計算・決算業務の代行・指導
  （この業務はＮＨＫ教育テレビで紹介された21世紀の経理システム「キャッシュ・レーダー」で行います。）
- 賃貸・譲渡や経営再建に関する相談
- 利益計画の作成、事業承継や財産管理等の資産保全に関する相談

なお、税務相談、申告書の作成等の税務については、日経メディカル「メディクイズ」を連載執筆中の「小山公認会計士事務所」がサポートいたします。

有限会社　経理処理サービス

本社　東京都田無市本町５－１１－１４
ＴＥＬ．０４２４(６４)８３９０
ＦＡＸ．０４２４(６４)２２１８